

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立明保小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 92人

② 算数 92人

#### 5 留意事項

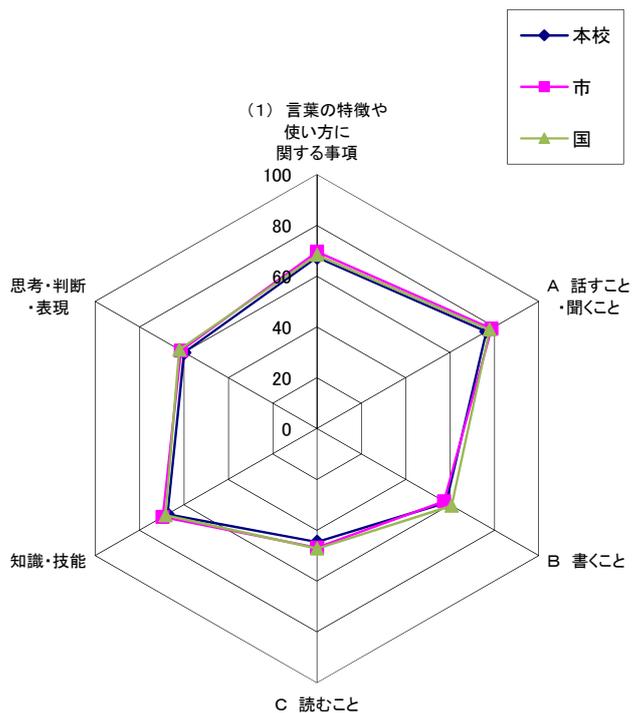
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立明保小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.4	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	76.4	78.7	77.8
	B 書くこと	58.2	57.3	60.7
	C 読むこと	44.6	46.9	47.2
観点	知識・技能	67.4	69.6	68.3
	思考・判断・表現	59.9	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

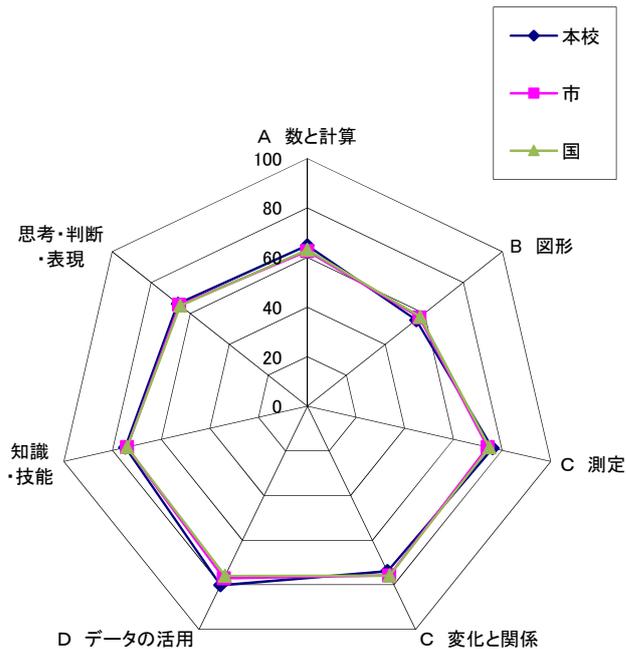
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	<p>○領域の平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題では、1問で国の平均を5ポイント上回った。</p> <p>●文中の主語と述語を捉える問題では、国の平均を7ポイント下回った。</p> <p>●また、修飾と被修飾の関係を捉える問題でも国の平均を3ポイント下回った。</p>	<p>・漢字の読み書きについては、今後も効果的な指導法を工夫し、個別に支援するとともに、AIドリルを利用して、文章内で正しく使えるように習熟を図る。</p> <p>・主語と述語や、修飾、被修飾の関係では、教科書の文章や児童が慣れ親しんでいる文章を例に取り上げ、正しく関係性が捉えられるように繰り返し指導していく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>○領域の平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの問題を考える問題では、国の平均を0.8ポイント上回った。</p> <p>●資料を用いた目的を理解する問題や、目的や意図に応じ、資料を使って話す問題では、2ポイント程度国の平均を下回った。</p>	<p>・話の内容が明確になるような発表をすることは、他教科にも通じる学習の柱と考え、今後も分かりやすい発表を工夫する機会を意図的に設けていく。</p> <p>・より良い発表につなげるためには、効果的な資料の選択や提示方法があることを示し、社会や理科でのまとめや、総合的な学習の時間での発表機会を捉えて、資料の活用能力の向上を図る。</p>
B 書くこと	<p>●領域の平均正答率は全国平均を1.4ポイント下回っている。</p> <p>○目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題は、国の平均とほぼ同じである。</p> <p>●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題では、国の平均を5.0ポイント下回った。</p>	<p>・目的や意図、内容に応じて自分の意見を整理しながら書く力を養う。書きたいことを相手に伝わりやすく表現するために、必要な項目を提示し、文章の構成の方法を考えてから、文章を書くことができるように指導する。</p> <p>・行事などを実施した後など、機会がある毎に感想を書く機会を作り、日常的に文章を書く機会を設ける。</p>
C 読むこと	<p>●領域の平均正答率は全国平均を2.6ポイント下回っている。</p> <p>●文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題では、国の平均を3.7ポイント下回った。</p> <p>●目的に応じ、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つける問題では、国の平均を2.9ポイント下回った。</p> <p>●目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題では、国の平均を1.4ポイント下回った。</p>	<p>・文章を正しく読み取れるように、文章の内容を丁寧に確認をし、段落やまとまりの要約や筆者の主張などを的確に把握することに努める。</p> <p>・自分の意見をもち多様な視点や考えをもちながら文章を読み解くことを示し、友達と伝え合ったり、話し合ったりする時間を設け、考えを広げたり、深めたりする経験を積ませる。</p>

# 宇都宮市立明保小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	64.9	62.6	63.1
	B 図形	55.8	57.5	57.9
	C 測定	76.1	74.1	74.8
	C 変化と関係	73.9	75.8	75.9
	D データの活用	80.2	77.1	76.0
観点	知識・技能	74.8	74.1	74.1
	思考・判断・表現	66.3	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○領域の平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>●30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを記述する問題の正答率は、51.1%であった。基準量や比較量などの割合の考え方に関する問題を解くことに課題が見られる。</p> <p>●上記の問題では、無解答率が全国平均よりも低かったが、課題が見られる値を示した。</p>	<p>・今後も、計算ステップアップ等を活用して基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに、児童の状況に応じてやや複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>・割合の考え方に関する問題については、授業の中で適宜復習をしたり、AIDリルを活用し、理解度に応じて習熟を図ったりするなどして、定着を図っていく。</p>
B 図形	<p>○領域の平均正答率は、全国平均とほぼ同じである。</p> <p>●直角三角形の面積を求める問題の正答率は51.1%であった。また、二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める問題の正答率は、41.3%であった。基本的な面積の求め方の理解や図形の構成を捉える問題に課題が見られる。</p>	<p>・今後も、計算ステップアップ等を活用して基本の定着に向けた練習を継続するとともに、児童の状況に応じてやや複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>・図形の面積を求める問題については、授業の中で適宜復習をしたり、AIDリルを活用し、理解度に応じて習熟を図ったりするなどして、定着を図っていく。</p>
C 測定	<p>○領域の平均正答率は、全国平均よりもやや高い。</p> <p>○道のりの差を求める問題や複数の図形を組み合わせた図形の面積を求める問題では、全国や県の平均よりも高くよくできている。</p> <p>●条件に合う時刻を求める問題では正答率が87.0%であるが、全国や県の平均よりも2ポイントほど低い。</p>	<p>・基本的な時刻を求めることはできるが、問題文を正しく読み取り、何を問われているのかをじっくり考える段階での誤りが見られるので、文章題にも取り組ませていくようにする。</p>
C 変化と関係	<p>○領域の平均正答率は、全国平均よりもやや高い。</p> <p>○道のりと時間の関係について考察したり、速さと道のりを基に時間を求める式に表したりする問題についてはよくできている。</p> <p>●二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ問題の正答率は、51.1%であった。速さを求める除法の式と商の意味を理解に関する問題に課題が見られる。</p>	<p>・速さの問題では、道のり・速さ・時間の関係、時速・分速秒速の意味や活用法をもう一度見直し、さらなる定着を図っていく。基本的なことをつまづいている児童には、児童の能力に合った教材や資料を用いて簡単な問題から取り組ませ、苦手意識のある児童の支援を続けていく。</p>
D データの活用	<p>○領域の平均正答率は、全国平均よりもやや高い。</p> <p>○棒グラフから数量や項目間の関係を読み取る問題については、正答率がそれぞれ95%を超えておりよくできている。</p> <p>●帯グラフを読み取る問題の正答率は、52.1%であった。表された複数のデータから示された特徴をもった項目を選んだり、その割合を求めたりすることに課題が見られる。</p>	<p>・個別のグラフの基本的な読み取りはできるので、複数のデータを示されたときにその関係性を読み取ったり、式に表したりするような複雑な問題を解決できるような力も身に付けられるよう、基本的な問題だけでなく応用問題にも取り組ませていく。</p>

# 宇都宮市立明保小学校 第6学年 児童質問紙

## ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童は93.5%。また「家で自分で計画を立てて勉強をしている(学校の授業の予習や復習を含む)」と回答した児童の割合は89.1%とともに県や全国の割合を比較して高い肯定率であった。本校では年3回家庭学習強化週間を設け、自主学習のやり方について指導している成果が表れているものと考えられる。引き続き継続して指導していきたい。

○「話し合う活動では、話し合う内容を理解して、友達のを考えを受け止めて、自分の考えをしっかりと伝えている」と回答した児童は93.5%と県や全国の割合と比較して高い肯定率であった。また、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童も89.2%と全国平均78.8%より高かった。日頃の授業の中で意図的に話し合いの場を設定し、成果が表れていると考えられる。今後も継続して指導していきたい。

○「自分にはよいところがある」と回答した児童は80.4%と高い肯定回答率であった。本校では昨年度から道徳教育を研究しており、授業や生活の中で活躍の場を与え、やり遂げることで自信をもたせたり認め励ましたりするなど、一人一人のよさを認め励ます教育の充実を図ってきた成果である。

●「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じた」と回答した児童は60.9%と全国より高い割合であった。しかし、その中でも「計画的に学習を続けることができた」と回答した児童は67.4%と全国よりやや上回った。このことから、児童は不安を抱えながらも学校と家庭が連携し、家庭での学習を支援してきた結果が表れている。

●授業におけるICT機器の活用については、週1回以上使用していると回答した児童は29.3%であり、全国の割合と比較して低い傾向にあった。現在は新型コロナウイルス感染症予防対策の一環でICT機器の活用が以前より高まっている。また教師も研修を重ね、授業中のICT機器の活用の頻度も高まってきている。今後も研修を重ね、教師、児童ともに様々な活用方法を習得していきたい。

## 宇都宮市立明保小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の確実な定着	宮っ子学カステップアップシートやドリル学習を年間通して実施している。家庭学習強化週間の設定や家庭学習啓発資料の配付を通して、家庭との連携を図り、主体的に家庭学習に取り組めるようにしている。少人数指導や習熟度別学習など、学習形態を工夫することで、個に応じた指導を行っている。	「家で自分で計画を立てて勉強していますか」に肯定的に回答した児童の割合は、89.1%で県や全国の平均よりも10ポイント以上高い。 「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」に肯定的に回答した児童の割合は85.8%で、県の平均より0.7ポイント低く、全国より4.4ポイント高い。 習熟度別学習を実施している教科に関して、「算数の勉強は好きですか」に肯定的に回答した児童の割合は75%で、県や全国の平均よりも7ポイント以上高く、「算数の授業の内容はよく分かりますか」に対する肯定的割合は91.3%で、県や全国の平均よりも5ポイント以上高い。
対話的で深い学びを通じた問題解決学習	授業の導入では課題を明確にし、展開ではソーシャルディスタンスの確保に留意しながらペアやグループで課題解決を行い、終末では学習の振り返りを行うことで、学習内容の定着を図っている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に肯定的に回答した児童の割合は89.2%で、県の平均よりも7ポイント、全国よりも10.4ポイント高い。 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対する肯定的回答割合は93.5%で、県の平均よりも13.4ポイント、全国よりも15.2ポイント高い。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、文章中の主語と述語の関係や修飾と被修飾の関係を捉える問題における正答率が、県や全国の平均よりも低く、無回答率は県や市の平均よりも約5ポイント高かった。	言語事項の継続的指導	低学年から、授業の中だけでなく日常会話においても主語と述語のつながりを正しくしたり、修飾語を適切に使ったりできるよう、段階的・継続的に指導していく。また、本や新聞などの活字に触れる機会を重視し、読書の奨励に努めていく。
教科に関する調査において、いくつかの情報を基に整理して書くような記述式設問における正答率が県や市の平均よりも低い傾向にある。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならない語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、始めから完璧な解答を求めずに、児童に寄り添いながら思考の過程を励ますことで自信をもたせたり、友達のよい文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。
質問紙調査において、「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対し、本校の目標とする1時間以上と回答した児童の割合は66.3%であった。(県の平均より3.8ポイント低く、全国より3.8ポイント高い。)	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	家庭学習に継続的に取り組むことができるよう「家庭学習の進め方」等を活用しながら、計画手方の立て方や内容・目標とする時間についての指導を定期的にしていくようにする。また、家庭との連携を図れるよう、啓発資料や学年だより等を活用して保護者の意識を高められるようにする。